

2019

Faculty of Music

学生募集要項

一般選抜／社会人特別選抜

京都市立芸術大学

— 音楽学部 —

平成31年度〔2019年度〕

○下記の書類がとじ込みされているかご確認ください。

(1)入学願書(志願票・受験票(控)・受験票・払込受付証明書貼付票)

(2)入学考査料払込取扱票

(3)封筒(入学願書等提出用)

(4)封筒(受験票返送用)

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

ー音楽学部の教育・研究目的ー

音楽学部は、個性を尊重し創造性を育む専門的な音楽芸術の教育研究により、幅広い教養を併せ持つ優れた音楽家や研究者となりうる人材を育成することを目的とします。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

音楽学部は、次のような学生を求めています。

- 1 音楽芸術の専門教育を受けるに足る基礎的技術と知識、強い学習意欲を持つ学生
- 2 個性と芸術的創造力にあふれる学生

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学部は、学生が専門分野における技術と知識を学び、感性を養うとともに、あらゆる芸術の土台となる幅広い教養と、次の力を身につけることを目指し、カリキュラムを編成し、実施します。

- 1 実演分野においては、楽器、声を操る上での基礎的な身体技法及びそれらを自由に操る知的応用力
- 2 創作分野においては、作曲上必要となる基礎的な楽音の取扱い方と知的応用力、またその記譜力
- 3 学術分野においては、問題を把握する基礎的な思考力及び情報リテラシー能力

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

音楽学部は、卒業時まで達成すべき目標を以下のとおりとします。

- 1 実演、創作、学術の各分野における、音楽人として相応しい音楽的もしくは学術的基礎力、応用力の獲得
- 2 幅広い教養を有し、それらを社会に対して創造的に発信し、芸術文化に寄与できる能力の修得

入学試験の基本的な考え方・方針

音楽学部は、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に適した学生を受け入れるため、以下の試験を課しています。

- ・ 本学での専門教育を受けるに足る基礎的な学力を評価するため、大学入試センター試験（国語、外国語等）を課します（音楽学専攻社会人特別選抜を除く）。
- ・ 本学での専門教育を受けるに足る専攻ごとの技術や知識を評価するため、第一次試験において各専攻別に課題を課します。
- ・ 本学での専門教育を受けるに足る幅広い音楽的素養を評価するため、第二次試験（音楽通論、聴音書取、新曲視唱、副科ピアノ演奏等）を課します。
- ・ 以上の試験の成績を総合的に判断し、最終合否判定を行います。

入学前に身につけてほしい力

音楽学部の各専攻では、以下のような能力を入学までに身につけることを期待します。

作曲専攻

- ・ 和声法及び対位法の基礎能力
- ・ それらを使って、音楽を構成できる能力
- ・ 高度の作曲法へ進むための、読譜力、理解力、知的好奇心

指揮専攻

指揮法、いわゆるバトンテクニックの習熟度よりも、音楽家としての基礎力の習熟度を重視します。具体的には、

- ・ 聴音、視唱等のソルフェージュの基礎能力の向上
- ・ 和声法の基礎能力

の2点を重視します。

加えて、ピアノまたは他の楽器、声楽での演奏を通して音楽的な表現が出来るように、演奏面での習熟も期待します。

ピアノ専攻

- ・ 基礎的な読譜・初見能力の習得
- ・ 音楽の語法、形式、様式（スタイル）に対する理解と実践
- ・ 基礎的な練習曲、演奏技術（メカニズム）の理解と習得
- ・ バロック・古典・ロマン・近現代作品など多様なレパートリー構築への準備

弦楽専攻

- ・ 基礎的な読譜能力および演奏技術の習得
- ・ 音階、練習曲、協奏曲の学習と実践
- ・ バロック・古典・ロマン・近現代の多様な作品の演奏への準備

管・打楽専攻

- ・ 基礎的な楽器演奏技術
- ・ 基礎的な読譜能力及び、様々な時代様式の楽曲に対する基礎的理解とその表現技術

声楽専攻

- ・基礎的な歌唱技術
- ・聴音，視唱等のソルフェージュの基礎能力（特にコールユーブンゲンは重要な課題の一つなので，習得しておくこと）

音楽学専攻

音楽に対する関心に加えて総合的な俯瞰能力を有する者を求めます。それに当たって以下に掲げる基礎的な学力が受入の際の評価の対象となります。

- ・高等学校の教育課程の教科・科目の履修により培われる論理的思考能力
- ・高等学校の教育課程の教科・科目で習得した内容を活用する能力
- ・国語・外国語を用いたコミュニケーションならびに自己表現の能力

I 一 般 選 抜

(社会人特別選抜との併願はできません。)

1 募集人員

音楽学部 (計 65 名)

学 科	専 攻	募集人員
音楽学科	作 曲 専 攻	4 名
	指 揮 専 攻	
	ピ ア ノ 専 攻	14 名
	弦 楽 専 攻	14 名
	管・打楽専攻	16 名
	声 楽 専 攻	14 名
	音 楽 学 専 攻	3 名

注 1 本学部は後期日程のみの募集です。

2 音楽学専攻の 3 名は社会人特別選抜の募集人員を含みます。

2 出願資格

本学に出願できる者は、(1)～(8)のいずれかに該当する者で、平成 31 年度大学入学者選抜大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目を全て受験した者として、大学入学者選抜大学入試センター試験において指定する教科・科目及び配点については、「3 大学入試センター試験で受験を要する教科等」をご参照ください。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成 31 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）及び平成 31 年 3 月修了見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則第 8 条第 1 項に規定する認定試験合格者（旧大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）第 8 条第 1 項に規定する資格検定合格者を含む。）及び平成 31 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、平成 31 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者
- (8) その他相当の年齢に達し、学長が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

3 大学入試センター試験で受験を要する教科等

大学入試センター試験において受験しなければならない教科・科目及び配点は次のとおりです。必要な教科のうち 1 教科でも欠席した場合は受験を認めませんので、受験科目を十分確認のうえ、出願してください。

専攻	教科	科 目	配 点	
作曲専攻 指揮専攻 ピアノ専攻 弦楽専攻 管・打楽専攻 声楽専攻	国語	「国語」	200 点	2 教科 2 科目 合計 400 点
	外国語	「英語(リスニング含む)」「ドイツ語」 「フランス語」から 1 科目選択	200 点	
音楽学専攻	国語	「国語」	200 点	3 教科 3 科目 合計 600 点
	地理歴史 公民 数学	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」「数学 I」「数学 I・数学 A」「数学 II」「数学 II・数学 B」から 1 科目選択	素点 100 点を 200 点に換算	
	外国語	「英語(リスニング含む)」「ドイツ語」 「フランス語」「中国語」「韓国語」 から 1 科目選択	200 点	

- 注 1 外国語のうち「英語」を選択受験した場合の配点は、筆記(200 点満点)とリスニング(50 点満点)の合計得点を 200 点満点に換算します。なお、リスニングテストを受験しなかった場合は失格となります。ただし、リスニングテスト免除者については、筆記試験の成績を換算せずに利用します。
- 2 音楽学専攻における「地理歴史、公民」での 2 科目受験者については、第 1 解答科目の得点を採用します。
- 3 音楽学専攻において「地理歴史、公民」と「数学」を受験した場合は、「地理歴史、公民」と「数学」のうち高得点の 1 教科の得点を採用します。
- 4 過年度の成績を利用することはできません。

4 出願手続(願書受付)

- (1) 出 願 期 間 平成 31 年(2019 年)1 月 28 日(月)から 2 月 6 日(水)まで。
2 月 6 日(水)当日までの消印のある簡易書留・速達郵便にて到着したものを受理します。
- (2) 出 願 方 法 本学から交付した封筒に下記提出書類を一括同封し、必ず簡易書留・速達で郵送してください。(直接大学に持参されても受け付けません。)
(声楽専攻志望者のみ、伴奏用楽譜を同封して郵送すること(20 ページ参照)。)
- (3) 入学考査料 17,000 円
ア とじ込みの「払込取扱票」により、郵便局窓口(ATM からの払込は不可)へ払い込んでください。(要手数料)
イ 願書提出後、考査料は一切返還しません。
- (4) 郵 送 先 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13 - 6
京都市立芸術大学連携推進課入試担当
- (5) 身体に障害を有する入学志願者との事前相談について

本学に入学を志願する者で、身体に障害(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・その他)がある者は、受験上及び修学上配慮を必要とすることがありますので、出願の前にあらかじめ下記の方法により本学に申し出てください。

ア 申し出期限 平成 31 年(2019 年)1 月 4 日(金)まで

イ 相談の方法

次の（ア）～（オ）の事項を記載した申請書（様式は問いません。）に医師の診断書を添えて提出することとし、必要な場合は、本学において、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接等を行います。（期限後に、受験上及び修学上配慮が必要になった志願者も、速やかに連絡はしてください。）

（ア）志望専攻 （イ）障害の種類・程度 （ウ）受験上の配慮を希望する事項

（エ）修学上の配慮を希望する事項 （オ）その他参考となる事項

5 提出書類

(1) 入学願書（用紙は本要項にとじ込み）

ア 記入する氏名は戸籍名と同一のこと。外国籍の場合は、住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。

イ 志望専攻が弦楽専攻、管・打楽専攻の場合は、（ ）内に楽器名を必ず記入してください。出願後の変更は認めません。

(2) 平成 31 年度大学入試センター試験成績請求票

「後期日程用」を入学願書の所定欄に貼付すること。

〔なお、同一日程グループに属する 2 つ以上の大学、学部等への出願
（いわゆる重願）はできません。〕

(3) 調査書

ア 出身学校長が作成し、厳封したもの（開封無効）。

イ 出身校が廃校その他やむをえない事情のため調査書が得られない場合は、卒業証明書及び成績証明書等を調査書に代えて提出してください。成績証明書が発行できない場合は、それに代わる書類または、出身学校長からの「成績証明書を発行できない旨の文書」をあわせて提出してください。

ウ 高等学校卒業程度認定試験の合格者は、合格成績証明書を提出してください。ただし、高等学校等において科目を一部履修したことにより受験科目の一部を免除された場合は、その免除された科目の高等学校等の調査書または成績証明書もあわせて提出してください。

(4) 写真

ア 縦 4cm、横 3cm の上半身・無帽・正面向きのもの

イ 出願前 3 か月以内に撮影した同一のものを 3 枚

ウ 「志願票（裏面）」「受験票」「受験票（控）」の所定欄にそれぞれ貼付してください。

(5) 受験票送付用封筒

本要項にとじ込みの指定封筒に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、672 円分の切手（簡易書留・速達）を貼付してください。

(6) 振替払込受付証明書

入学料の払込と同時に郵便局から交付される「振替払込受付証明書」を入学願書の「払込受付証明書貼付票」に貼付してください。

注 各種証明書等と現在の姓が異なる場合は、改姓の事実が確認できる証明書等（戸籍抄本や運転免許証の写し等）を添付すること。

6 受験票

(1) 出願書類受付後、2 月 18 日（月）以降に本学から郵送します。

(2) 2 月末までに到着しない場合は、電話等により連携推進課入試担当に問い合わせてください。

(3) 受験番号は次の区分とします。

作曲専攻 21001 ～ 指揮専攻 22001 ～ ピアノ専攻 23001 ～ 弦楽専攻 24001 ～
管・打楽専攻 25001 ～ 声楽専攻 26001 ～ 音楽学専攻 27001 ～

7 出願状況

出願状況について、本学ホームページ (<http://www.kcua.ac.jp/>) で速報します。

8 入学試験

(1) 試験科目及び配点

受験者全員に第一次試験を行い、第一次試験合格者に対して、第二次試験を行います。

注 大学入試センター試験の配点は、作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽の各専攻については国語 200 点、外国語 200 点です。音楽学専攻については国語 200 点、外国語 200 点、選択教科 200 点（素点 100 点）です。

ア 第一次試験（900 点）

専攻試験 作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽の各専攻は実技試験（12 ページ以下参照）
音楽学専攻は英語（試験時間 1 時間 30 分）、小論文（試験時間 1 時間 30 分）、面接（各 300 点）

イ 第二次試験（400 点）

A 作曲専攻、指揮専攻、弦楽専攻、管・打楽専攻、音楽学専攻

- (a) 音楽通論 (b) 聴音書取（旋律聴音・和声聴音）
- (c) 新曲視唱 (d) 副科ピアノ演奏

B ピアノ専攻

- (a) 音楽通論 (b) 聴音書取（旋律聴音・和声聴音）
- (c) 新曲視唱 (d) ピアノ新曲視奏

C 声楽専攻

- (a) 音楽通論 (b) 聴音書取（旋律聴音・和声聴音）
- (c) 新曲視唱，コールユーブンゲン視唱（全訳書第 1 巻から当日 1 曲指定）
- (d) 副科ピアノ演奏

(2) 合否判定について

- ・第一次試験合否判定は第一次試験の成績のみによって行います。
- ・最終合否判定は、第一次試験、第二次試験及び大学入試センター試験の成績を総合的に判断して行います。
- ・最終合否判定に際しては、弦楽専攻、管・打楽専攻及び声楽専攻については、カリキュラム実施上の理由から、入学者間の数的バランスを考慮する場合があります。

(3) 試験会場

京都市立芸術大学（京都市西京区大枝杏掛町 13 - 6）

注 試験会場への略図、交通機関については、裏表紙を参照してください。

(4) 試験日程

		作曲	指揮	ピアノ	声楽	弦楽	管打楽	音楽学
第一次 試 験	3 月 12 日 (火)	●		●			●	●
	3 月 13 日 (水)	●		●			●	●
	3 月 14 日 (木)	●	●		●	●		
	3 月 15 日 (金)	●	●		●	●		
3 月 16 日 (土)		第一次試験合格者発表 (午後 3 時予定) (本学中央棟 1 階) 第一次試験合格者には、本学中央棟 1 階にて第二次試験の受験要領を交付します。 注 同日、午後 4 時 (予定) から第一次試験合格者の受験番号及び第二次試験の受験要領を本学ホームページ (http://www.kcua.ac.jp/) に掲載します。 ただし、この掲載は情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障するものではありません。電話等による問い合わせには一切応じません。						
第二次 試 験	3 月 17 日 (日)	第一次試験合格者のみ第二次試験を実施します。 音楽通論、聴音書取、 新曲視唱、コールユーブンゲン視唱、 ピアノ新曲視奏、副科ピアノ演奏						
注 1 第一次試験の試験開始時刻などの試験日程、諸注意については、受験票送付時に同封してお知らせします。 2 受験順 (演奏順) については、本学音楽学部にて厳正に抽選を行い決定します。 3 第二次試験の試験日程について ピアノ専攻は午前 9 時、その他の専攻は午前 10 時 30 分からの開始予定です。 各専攻とも、午後も試験があります。詳細は、第一次試験合格者への受験要領でお知らせします。								

(5) 受験者諸注意

- ア 試験当日、定められた時刻に集合し、係員の指示を待つこと。本学への入口は正門のみとします。
- イ 本学受験票及び大学入試センター試験受験票を必ず持参してください。
- ウ 急病その他事故のため定刻に集合できない事情が発生した場合は、速やかに連携推進課入試担当まで連絡してください。
- エ 定められた試験科目を1科目でも欠席すると、以降の試験科目は受験できません。
- オ 試験に関する不正行為があったときは、試験を無効とし、退席させます。
- カ 試験場構内の下見はできません。
- キ 原則として付き添いの構内入場は許可しません。
- ク 受験生のための駐車場・駐輪場は設けていません。
- ケ 入学試験当日に受験できなかった場合、追試験等の特別措置及び入学考査料の返還は行いません。
- コ 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(インフルエンザ、麻疹、水痘等)に罹患し治癒していない場合又は罹患した疑いがある場合は、他の受験生や監督者等への伝染の恐れがありますので、原則として受験をご遠慮願います。ただし、症状により医師が伝染の恐れがないと認めた場合は、この限りではありません。

(6) その他

他の国公立大学・学部*の推薦入学合格者は、本学入学試験を受験できません。たとえ受験しても、受験者として取り扱いません。(推薦入学辞退願を提出することにより入学辞退を許可された場合を除く。)また、前期日程試験に合格し、3月15日(金)までに入学手続を行った者は、本学実施試験を受験しても合格者とはなりません。

※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部については、公立大学協会ホームページ(<http://www.kodaikyo.org/nyushi>)を参照。

9 最終合格者発表

平成 31 年 3 月 20 日（水）午前 10 時（予定）本学内に掲示し、合格者には文書で通知します。なお、合格発表日の午前 11 時（予定）から約 1 週間、本学ホームページ（<http://www.kcua.ac.jp/>）で合格者の受験番号を掲載します。（※）ただし、本学掲示発表ならびに、合格通知の発送をもって正式なものとしします。

電話等による問い合わせには、一切応じません。

※ 本学ホームページでの合格者の受験番号掲載は情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障するものではありません。

10 入学手続

(1) 入学手続期間

最終合格者は 3 月 25 日（月）から 3 月 27 日（水）の間に入学手続を完了してください。

郵送による手続は認めません。

この日までに入学手続を完了しない場合は、入学辞退者として取り扱います。

(2) 場 所 京都市立芸術大学連携推進課入試担当（中央棟 2 階）

(3) 入学手続の方法

本学の入学手続に際し、必要なものは次のとおりです。

ア 入学料の納付	市内出身者	282,000 円
	市外出身者	482,000 円

注 1 市内出身者とは、入学前年の 4 月 1 日以前から引き続き京都市内に居住し、住民票の写しにより証明される者

2 上記の入学料は平成 30 年度（2018 年度）入学者の場合であり、改定があった場合は合格者に通知します。

イ 誓約書の提出（正・副保証人）

ウ 大学入試センター試験受験票の提示

注 なお、入学時に必要な納付金及び提出書類については、合格通知と同時に合格者に通知します。

(4) 注意事項

一つの国公立大学に入学手続を行った者は、これを辞退して他の国公立大学に入学手続を行うことはできません。

11 追加合格

3 月 27 日（水）入学手続締切後欠員が生じた場合は追加合格を行います。

追加合格は 3 月 28 日（木）から 3 月 31 日（日）までに行いますので、その期間は必ず連絡が取れるようにしてください。（連絡は大学から行い、受験生からの問い合わせには一切応じません。）

なお、追加合格の実施の有無については、3 月 28 日（木）に、その旨を本学ホームページに掲載します。

12 試験の成績照会について（第二次試験不合格者のみ）

第二次試験を受験して不合格となり、試験結果（不合格理由）の通知を希望する者は、不合格理由開示請求、受験番号、志望専攻、氏名を明記し、**本学受験票（原本）**及び長形 3 号の返信用封筒（定形封筒に宛先記入、82 円切手貼付）を同封のうえ、4 月 30 日（火）までに連携推進課入試担当まで郵送で請求してください。なお、電話等での問い合わせには応じません。回答内容は、合格基準を満たさなかった項目にチェック印（✓）を入れたものとなります。（期限後の照会には応じません。）

13 必要経費

(参考：平成 30 年度 (2018 年度) 入学者)

授 業 料	535,800 円	・ 前期	267,900 円 (納期 4 月中)
		・ 後期	267,900 円 (納期 10 月中)
入 学 料	282,000 円 (市内出身者)	}	(納期 入学手続期間 8 ページ 10 入学手続 参照)
	482,000 円 (市外出身者)		

そ の 他

音楽教育後援会会費	}	(納期 新入生手続期間 3 月下旬)
100,000 円 (学部 4 年間分).....		
真声会 (同窓会) 入会金		
15,000 円		
学生教育研究災害傷害保険料		
3,300 円 (学部 4 年間分).....		
学研災付帯賠償責任保険料		
1,360 円 (学部 4 年間分).....		

附 記

- 1 本学には寮の施設はありません。
- 2 本学には、日本学生支援機構 (旧・日本育英会)、地方自治体、各種企業等の奨学金制度があります。
- 3 本学には授業料の減免制度があります。

14 個人情報の取り扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律 (以下「個人情報保護法」という。) に基づき本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、入学者選抜に係わる業務のほか、次のとおりです。

(1) 利用目的について

- ア 合格者の住所・氏名等の個人情報を入学手続に係わる業務で利用します。
- イ 入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学後の学籍管理等の修学に係わる業務並びに健康診断等の保健管理に係わる業務で利用します。
- ウ 入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学料並びに授業料徴収等の納付金管理に係わる業務で利用します。
- エ 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を 1 年次における授業料減免及び奨学生選考等の修学支援に係わる業務で利用します。
- オ 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を個人が特定できない形で統計処理等の付随する業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究で利用します。

(2) 第三者への個人情報の提供について

本学が取得した個人情報は、「個人情報保護法」第 9 条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

ただし、次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

- ア 上記 (1) ア～オの個人情報を取り扱う業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者に委託する場合
- イ 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うために、合格及び入学手続等に関する個人情報 (氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限る。) を独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達する場合
- ウ 本学の教育後援会、同窓会に情報提供する場合 (合格者のみ)

Ⅱ 社会人特別選抜

(音楽学専攻のみの募集です。一般選抜との併願はできません。)

1 募集人員

音楽学科 音楽学専攻 若干名

注1 本学部は後期日程のみの募集です。

2 社会人特別選抜の募集人員は、一般選抜の音楽学専攻募集人員3名に含まれます。

2 出願資格

社会人特別選抜試験に出願できる者は、一般選抜における出願資格(1)～(8)(本要項3ページに記載)のいずれかに該当する者で、平成31年4月1日までに満23歳に達し、社会人(就職の有無は問わない。)の経験を4年以上有する者としします。ただし、学校(定時制、夜間及び通信制の学校は除く。)の通学期間は、社会人の経験期間に含めません。

注 出願資格(8)により出願しようとする者は、出願資格認定審査の手続を要するため、平成30年12月28日(金)まで(必着)に連携推進課入試担当へ以下の書類を提出してください。(郵送可)

- ・京都市立芸術大学入学資格認定申請書(様式は連携推進課入試担当に電話で請求してください。)
- ・出身校の学則等(修業年限やカリキュラム等の確認できるもの)
- ・出身校の調査書
- ・出身校の卒業(見込)証明書

3 出願手続

一般選抜に同じ

4 提出書類

(1) 入学願書(用紙は本要項にとじ込み)

ア 記入する氏名は戸籍名と同一のこと。外国籍の場合は、住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。

イ 平成31年度大学入試センター試験成績請求票貼付欄にある社会人特別選抜欄に✓印を付けること。

(2) 志願理由書(用紙は本要項にとじ込み)

本専攻を志願した理由等を具体的に書き、履歴欄に最終学歴と職歴を記入すること。

(3) 卒業・修了証明書及び成績証明書

最終学歴の卒業・修了証明書又は見込証明書及び成績証明書(厳封したものに限る。)

(4) 写真

ア 縦4cm、横3cmの上半身・無帽・正面向きのもの

イ 出願前3か月以内に撮影した同一のものを3枚

ウ 「志願票(裏面)」 「受験票」 「受験票(控)」 の所定欄にそれぞれ貼付してください。

(5) 受験票送付用封筒

本要項にとじ込みの指定封筒に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、672円分の切手(簡易書留・速達)を貼付してください。

(6) 振替払込受付証明書

入学考査料の払込と同時に郵便局から交付される「振替払込受付証明書」を入学願書の「払込受付証明書貼付票」に貼付してください。

5 受験票

一般選抜に同じ ただし、受験番号は次の区分とします。 音楽学専攻 27501～

6 出願状況

一般選抜に同じ

7 入学試験

一般選抜に準ずる。

ただし、大学入試センター試験を免除します。

8 最終合格者発表

一般選抜に同じ

9 入学手続

一般選抜に準ずる。

ただし、大学入試センター試験受験票の提示は不要

10 追加合格

一般選抜に準ずる。

ただし、一般選抜を含めた音楽学専攻志願者の中から追加合格を行います。

11 試験の成績照会について（第二次試験不合格者のみ）

一般選抜に同じ

12 入学後の必要経費

一般選抜に同じ

13 個人情報の取り扱いについて

一般選抜に同じ

平成 31 年度 (2019 年度)
音楽学部入学試験各専攻実技課題

作曲専攻

(第 1 日) 和声法：A ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4 声体とすること。

B バス課題：与えられたバスに和声をつけ、4 声体とすること。

両課題とも記譜は次の a 又は b のいずれかを選択すること。

a ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

b ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (a,b による記譜) は別記のとおり。試験時間各 2 時間 30 分

作品提出：自作品を 1 曲以上、試験当日に提出すること。(コピー譜を提出のこと。提出された作品は返却しない。)

(第 2 日) 二声対位法：与えられた全音符の定旋律に、対旋律をつくる。試験時間 3 時間

対旋律は、2 分音符、4 分音符、8 分音符と移勢 (シンコペーション) を含む、いわゆる自由 (華麗) 対旋律によるものとする。

解答は、次の 1～6 の 6 通りが必要である。

1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は a 又は b のいずれかを選択すること。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (a による記譜) は別記のとおり。

(第 3 日) 作 曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間 4 時間 30 分

(第 4 日) 面 接：各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻 (第 1 日) 和声法の実施例

* 課題 {過去の出題 (ソプラノ課題) より冒頭 2 小節}



* 記譜 b による実施例



* 記譜 a による実施例

Andante (♩=72 ca.)

The score is for a four-part setting in A major (three sharps) and 4/4 time. The tempo is Andante, with a quarter note equal to approximately 72 beats per minute. The first staff (Soprano) starts with a mezzo-piano (mp) dynamic and features a melodic line with a crescendo to mezzo-forte (mf) and a decrescendo. The second staff (Alto) also starts with mp. The third staff (Tenor) starts with mp. The fourth staff (Bass) starts with a whole rest and then enters with mp. The score includes various phrasing marks and dynamics throughout.

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

* 記譜 a による実施例

定旋律

The exercise is in A major (three sharps) and 4/4 time. The fixed melody (定旋律) is shown in the bass clef as a series of half notes: A, B, C, D, E, F#, G, A. Below it are six numbered examples (1-6) showing different contrapuntal treatments. Each example consists of two staves (treble and bass clef). Examples 1-3 are in A major, while examples 4-6 are in A minor (three sharps). The exercises demonstrate various contrapuntal techniques such as intervallic treatment, rhythmic treatment, and melodic treatment.

指揮専攻

(第1日) 1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。(演奏は二台ピアノによる)

- (ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第1番 ハ長調 作品21より第1楽章, 第4楽章
- (イ) L. v. Beethoven : 交響曲 第2番 ニ長調 作品36より第1楽章, 第2楽章
- (ウ) L. v. Beethoven : 交響曲 第4番 変ロ長調 作品60より第1楽章, 第2楽章
- (エ) L. v. Beethoven : 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第1楽章, 第2楽章

上記、出版社は自由とする。

2 下記の楽曲による総譜視奏(スコアリーディング)

- (ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第2楽章
- (イ) 初見視奏(当日提示する管弦楽曲)

3 既に習得している楽器(ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか1つ)若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリンバについては、本学で用意する楽器を使用すること。なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目を願書に明記すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際1曲につき2部ずつ提出すること。

- ・1ページの大きさはA4判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。
- ・表紙には曲名、調、氏名を明記すること。(表紙の右上部分には何も書かないこと。)
- ・角型2号の封筒に入学願書等の提出書類を同封し、**簡易書留・速達**で郵送すること。封筒には「入学願書在中」と明記すること。(入学願書等提出用封筒は使用しなくてもよい。)

4 和声法：与えられたソプラノとバスの旋律に和声をつけ、4声体とすること。

(記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間

(第2日) 面接を行う。

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 F. Chopin : 練習曲作品10及び作品25から任意の2曲を選択し、第1日目に、本人による抽選で、演奏する1曲を決定する。

3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナター曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する(1つの、あるいは複数の)楽章を決定する。

※注意

- (1) いずれも暗譜演奏すること。
- (2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。
- (3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。
- (4) 1については7分以上12分程度までとする。
- (5) 1については、変奏曲の抜粋は認めない。
- (6) 2について、以下の曲は除く。
作品10から3, 6, 9 作品25から1, 2, 7
- (7) 2について、作品番号にかかわらず2曲を選択することも可。
(例：10-1 10-2 あるいは25-4 25-5 あるいは10-1 25-4)
- (8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

※注意

- (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。
- (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
- (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。
- (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただし Lalo のスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No.6 ~ No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符 = 80以上, No.6 ~ 10 は8分音符 = 60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1 (ただし17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

*ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz: 協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章(版は自由とする。カデンツァを除く。)

J. Christian Bach: 協奏曲 ハ短調 第2楽章及び第3楽章 (SALABERT 版を使用すること。カデンツァを含む。)

A. Hoffmeister: 協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章(IMC 版を使用すること。カデンツァを除く。)

C. M. v. Weber: Andante e Hungarian Rondo (IMC 版を使用すること。)

M. Reger: Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

G. Enesco: Concert piece

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8

ただし No.6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli: 41 Caprices 作品22 より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

＊チェロ

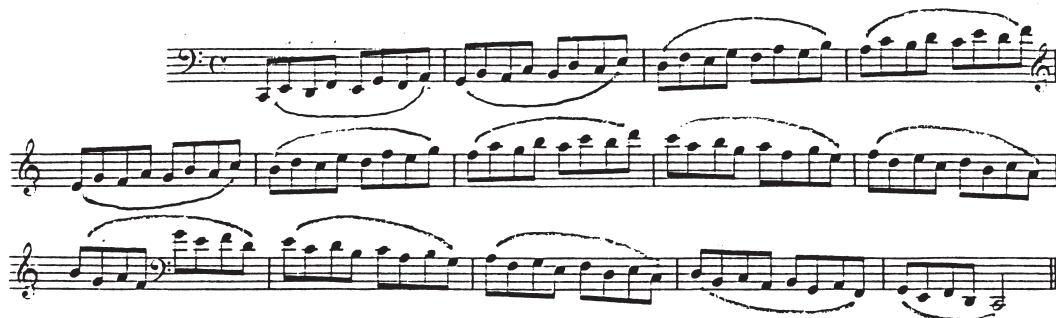
(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章又は最終楽章を演奏すること。

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、ホ長調による下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4 オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音 ↓ = 100 以上)

(b) 4 オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音 ↓ = 100 以上)

ハ長調の例



(c) 4 オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音 ↓ = 60 以上)

(d) 2 オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由 ↓ = 80 以上)

(e) 2 オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由 ↓ = 80 以上)

(f) 1 オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由 ↓ = 80 以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport : Etudes より任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

＊コントラバス

(第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由。スラーの変更可。)

2 A. Vivaldi : Six Sonatas 第1番より第1, 第2楽章 (Largo, Allegro) を演奏すること。

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)
(2) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
(3) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) E. Köhler : 12 Medium Difficult Exercises 作品33 第Ⅱ巻の中から当日指定する曲(版の指定なし。)
(第2日) W. A. Mozart:協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 (K6. 285C) 第1楽章(カデンツァを除く。)

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling: 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版) より第11番, 第14番, 第19番, 第21番, 第26番, 第33番, 第35番, 第36番, 第40番, 第44番の中から当日指定する曲
(第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. VIIg : C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf 版)

*クラリネット

- (第1日) C. Rose : 32 Etudes (Alphonse Leduc 版) より 第6番, 第9番, 第14番, 第15番, 第18番, 第21番, 第25番, 第26番, 第28番, 第31番の中から当日指定する曲。
- (第2日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC)の各調1・2番をレガート, スタッカートで演奏すること。(当日指定する調を暗譜で演奏すること。)
- 2 Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8第2巻より第1番から第15番までのの中から当日指定する曲(繰り返しなし, 版の指定なし)
- (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章, 第4楽章(版の指定なし。)

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版)より第7番, 第14番, 第17番, 第22番, 第29番, 第30番, 第31番, 第36番, 第43番, 第48番の中から当日指定する曲
- (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bemol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版, 繰り返しなし)より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV. 495 全楽章より当日指定(ただし第3楽章は第99小節目まで, カデンツァなし)

*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第19番 Cadenzas のの中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
- 2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第11番～第22番の中から当日指定する曲
- なお, 曲を演奏する前に, それぞれの調の音階を最初はテヌートで, リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

*トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社)より第10番, 第13番, 第15番, 第17番, 第19番, 第21番, 第22番, 第25番, 第31番, 第40番の中から当日指定する曲(繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号Dまで演奏)

*バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社)より第8番, 第11番, 第13番, 第17番, 第22番の中から当日指定する曲(繰り返しなし。第13番, 第17番, 第22番はオクターブ下で演奏すること)
- Ostrandier : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版)より第6番, 第10番, 第16番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号Dまで演奏)

*チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番, 第7番, 第8番, 第9番, 第10番, 第11番, 第12番, 第13番, 第14番, 第15番の中から当日指定する曲
2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番～第10番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第1楽章, 第2楽章, 第4楽章

*打楽器

打楽器 (A), 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006
- (第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)
- (第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

声楽専攻

(第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

(第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。

- | | | |
|------|-----------------|--------------------------------------|
| (1) | G. M. Bononcini | Deh, più a me non V'ascondete |
| (2) | G. Torelli | Tu lo sai |
| (3) | A. Scarlatti | Caldo sangue |
| (4) | A. Scarlatti | Sento nel core |
| (5) | A. Scarlatti | Già il sole dal Gange |
| (6) | A. Scarlatti | Le violette |
| (7) | C. W. Gluck | O del mio dolce ardor （全音版によるAバージョン） |
| (8) | V. Bellini | Per pietà bell'idol mio |
| (9) | V. Bellini | Vaga luna, che inargenti |
| (10) | F. P. Tosti | Rosa |
| (11) | S. Donaudy | O del mio amato ben |
| (12) | F. Schubert | An die Musik |
| (13) | F. Schubert | Lachen und Weinen |
| (14) | 山田耕筰 | 母のこえ |
| (15) | 中田喜直 | 風の子供 |

- ※注意
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

※伴奏用楽譜について

自由曲及び課題曲のためのピアノ伴奏用楽譜は、各自選択した調性の楽譜を願書提出時に1曲につき2部ずつ提出すること。
(自由曲2部、課題曲8部、計10部)

- (1) 1ページの大きさは、A4判
(297mm × 210mm) にすること。
- (2) 各ページが全開するよう横一連に綴じること。
- (3) 表紙に第1日・第2日の別、曲名、調、氏名を明記すること。[記入例参照]
(表紙の右上部分には何も書かないこと。)

※伴奏用楽譜の送付方法

角型2号の封筒（A4判が入る大きさ）に本要項末に綴じ込みの「楽譜送付票」を貼付し、差出人の住所、氏名等を記載し、簡易書留・速達で郵送すること。

※声楽専攻志望者のみ、「楽譜送付票」を貼付した封筒に、入学願書等の提出書類を同封すること。

(入学願書等提出用封筒は使用しなくてもよい。)

【記入例：伴奏用楽譜表紙】

第2日 課題曲
(3) A. Scarlatti
Caldo sangue (〇〇調)

芸大 和音

各専攻副科ピアノ課題曲

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を当日指定する。

速度は♩ = 76 M. M. 以上。

ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調

イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰ヘ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調

(注) ハノン第 39 番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。

- 2 (A) J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻より 前奏曲とフーガ 第 11 番 ヘ長調 BWV856

(B) J. S. Bach：2 声のインヴェンション BWV772 ～ 786 より 1 曲又はシンフォニア (3 声のインヴェンション) BWV787 ～ 801 より 1 曲を自由選択

ただし、インヴェンション第 10 番ト長調、シンフォニア第 5 番変ホ長調、シンフォニア第 6 番ホ長調を除く。

(C) R. Schumann：ユーゲントアルバム (子供のためのアルバム) 作品 68 より第 1 番 メロディー

(注) ※作曲及び指揮専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※弦楽、管・打楽、声楽及び音楽学専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) (C) の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※全て暗譜で演奏すること。(繰り返しはしない。)

入学願書記入例

志願票の裏面に写真貼付欄，受験票（控）の裏面に氏名，生年月日記入欄がありますので，記入漏れ等にご注意下さい。

志願票

平成31年度（2019年度）京都市立芸術大学音楽学部入学願書

※

出願資格	京都市立	昭和(平成)西暦	志望専攻	弦楽，管・打楽専攻の場合は，（ ）内に楽器名を記載のこと。	受験番号	※
	沓掛 高等学校 中等教育学校	31年3月 卒業(卒業見込)	声楽専攻 (楽器名)			
	上記以外の出願資格		フリガナ	ゲイダイ カズネ		
	☐ 高等学校卒業程度認定試験合格 平成 年 月 ☐ その他（ ）		氏名	芸大和音 男・女		
「平成31年度センター試験成績請求票（後期日程用）」をここにはがれないように貼付してください。	☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜	生年月日	昭和(平成)西暦 12年4月5日生 平成31年4月1日現在 18歳			
		現住所	〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 (TEL 075-xxx-xxxx) (携帯 090-xxxx-xxxx)			
		3/28～3/31までの連絡先 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 (TEL 075-xxx-xxxx) (携帯 090-xxxx-xxxx)				

注1 ※印欄は記入しないこと。 注2 各票のミシン目の部分を切らないこと。
注3 裏面の写真貼付欄に写真を貼り付け，氏名，生年月日記入欄に記入すること。

※演奏曲目記入を要する専攻については必ず下記に記入すること。

(第1日)	平成31年度(2019年度) 受験票(控) 京都市立芸術大学音楽学部
Donizetti: Convien partir! (〇〇調)	声楽専攻 (楽器名)
(第2日)	受験番号※
(1) G. M. Bononcini: Deh, più a me non V'ascondete (〇〇調)	☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜 写真貼付欄 縦4cm 横3cm 上半身無帽 正面向き
(3) A. Scarlatti: Caldo sangue (〇〇調)	
(8) V. Bellini: Per pietà bell'idol mio (〇〇調)	
(14) 山田耕筰: 母のこえ (〇〇調)	
該当するものに○印をつけてください。 コントラバス: 楽器を持参する ・ しない ハープ: 楽器を持参する ・ しない 打楽器: 打楽器 (A) ・ 打楽器 (B) 副科ピアノ課題曲: (A) ・ (B) ・ (C) (B) の曲目 [2声のインヴェンションBWV772]	

平成31年度（2019年度）	受験番号※
払込受付証明書貼付票 京都市立芸術大学音楽学部	
入学考査料の振替払込受付証明書を ここにはがれないように貼付すること。	

平成31年度（2019年度）	
受 験 票 京都市立芸術大学音楽学部	
声 楽 専攻 （楽器名）	受験番号※
☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜	
フリガナ	ゲイダイ カズネ 氏 名
芸 大 和 音	
生年 月 日	昭和・平成 西暦 12 年 4 月 5 日生 平成31年4月1日現在 18 歳
 写真貼付欄 縦4cm 横3cm 上半身無帽 正 面 向 き	
1. 受験の際には、この受験票と大学入試センター試験受験票を共に携帯すること。 2. 受験票を携帯しない者は、試験場に入ることはできない。 3. 試験場では所定の場所におくこと。	

(切り取り線)

受験番号 ※

※印欄は記入しないこと。

参照用

楽 譜 送 付 票 (声楽専攻のみ)

注意事項

- 1 声楽専攻の実技課題で指定された楽譜は、この楽譜送付票を使用して郵送すること。
- 2 ミシン目に沿って切り取り、角型2号の封筒（A4判が入る大きさ）に貼付し、差出人の住所、氏名を記載し、簡易書留・速達で送付すること。
- 3 郵送中にはがれないよう、しっかりと糊付けすること。
- 4 声楽専攻志願者のみ、入学願書を同封すること。

速 達

610-1197

切 手
貼 付

簡易書留

入学願書在中（声楽専攻のみ）

参照用

京都府立芸術大学
連携推進課入試担当 宛

京都市西京区大枝沓掛町一三―六

差 出 人	住 所	(〒)
	氏 名	
	志 望	声 楽 専 攻
	内 容	自由曲用楽譜 2 部， 課題曲用楽譜 8 部

平成31年度（2019年度）京都市立芸術大学音楽学部入学願書						※	
出願資格	立		昭和・平成・西暦		志望専攻	※	
	高等学校 中等教育学校		年 月 卒業・修了		専攻	受験番号	
					（楽器名）		
					フリガナ		
	上記以外の出願資格		氏名		男・女		
☐ 高等学校卒業程度認定試験		平成 年 月 日		平成 年 月 日生			
☐ その他（ ）		日		平成31年4月1日現在 歳			
「平成 31 年度センター試験成績請求票（後期日程用）」をここにはがれないように貼付してください。				現住所	〒		
音楽学専攻の社会人選抜志願者は、下欄に✓印を付けてください。				3/28～3/31までの連絡先 〒			
☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜				(TEL) (携帯)			

注1 ※印欄は記入しないこと。 注2 各票のミシン目の部分を切らないこと。
注3 裏面の写真貼付欄に写真を貼り付け、氏名、生年月日記入欄に記入すること。

※演奏曲目記入を要する専攻については必ず下記に記入すること。

(第 1 日)	平成31年度(2019年度) 受 験 票 (控) 京都市立芸術大学音楽学部	
	専攻	
	(楽器名)	
	受験番号※	
	☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜	
(第 2 日)	写真貼付欄 縦4cm 横3cm 上半身無帽 正 面 向 き	
該当するものに○印をつけてください。 コ ン ト ラ バ ス： 楽器を持参する ・ しない ハ ー プ： 楽器を持参する ・ しない 打 楽 器： 打楽器（A） ・ 打楽器（B） 副科ピアノ課題曲： （A） ・ （B） ・ （C） （B）の曲目 []		

平成31年度（2019年度） 払込受付証明書貼付票 京都市立芸術大学音楽学部	受験番号※
入学考査料の振替払込受付証明書を ここにはがれないように貼付すること。	

平成31年度(2019年度) 受 験 票 京都市立芸術大学音楽学部	
専攻	受験番号※
(楽器名)	
☐ 音楽学専攻 社会人特別選抜	
フリガナ	
氏名	
生年月日	昭和・平成・西暦 年 月 日生 平成31年4月1日現在 歳
写真貼付欄 縦4cm 横3cm 上半身無帽 正 面 向 き	
1. 受験の際には、この受験票と大学入試センター試験受験票を共に携帯すること。 2. 受験票を携帯しない者は、試験場に入ることはできない。 3. 試験場では所定の場所におくこと。	

写真貼付欄

縦4cm 横3cm

上半身無帽

正面向き

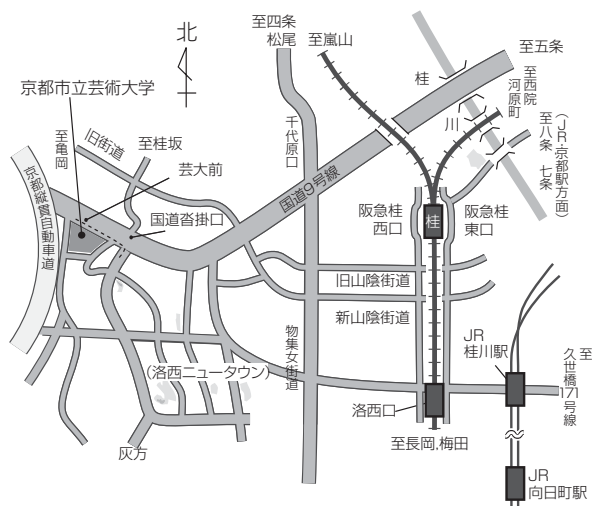
参照用

フリガナ	
氏名	
生年月日	昭和・平成・西暦 年 月 日生
	平成31年4月1日現在（ 歳）

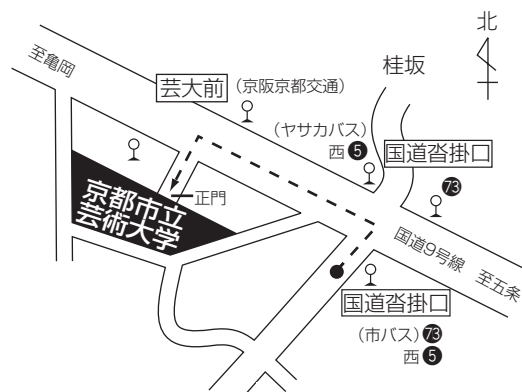
試験会場

京都市立芸術大学（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

◆試験会場への略図



◆試験会場周辺略図



◆試験会場への交通機関

平成30年7月1日現在

主要な駅	のりば	バスの種類	乗車時間	最寄りのバス停	バス停から大学までの所要時間
京都駅	C2 のりば	京阪京都交通バス (2・14・28A 系統)	約 45 分	芸大前	徒歩すぐ
	C5 のりば	市バス (73 系統)	約 45 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
阪急桂駅	桂駅東口 ②のりば	京阪京都交通バス (1・2・13・14・25・28A 系統)	約 20 分	芸大前	徒歩すぐ
	桂駅西口	市バス (西 5 系統)	約 20 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
JR 桂川駅 (阪急洛西口駅経由)		京阪京都交通バス (11A 系統)	約 15 分	芸大前	徒歩すぐ
JR 向日町駅 (JR 桂川駅・ 阪急洛西口駅経由)		ヤサカバス (1 号系統)	約 25 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分

【注意】

- 交通機関の利用については、路線及びダイヤの変更に留意するとともに、周辺の交通事情等を事前に把握し、試験当日、指定の時刻に遅れることのないよう注意してください。
- バスは京阪京都交通の利用が比較的便利です。

平成 30 年 (2018 年) 11 月
京都市立芸術大学 連携推進課 入試担当
〒 610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
Tel 075-334-2238 Fax 075-334-2281
<http://www.kcua.ac.jp>

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts